

Journal of ISOM Japan

国際東洋医学会日本支部会誌

ご挨拶

国際東洋医学会(International Society of Oriental Medicine: ISOM)

日本支部の皆様

国際東洋医学会副会長・日本支部長（理事長） 元雄 良治



拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。早いもので、前回のご挨拶から一年が経ちました。2025年8月30日（土）～31日（日）に台湾・台北にて、第21回国際東洋医学会学術大会(21st International Congress of Oriental Medicine: 21st ICOM)が開催される運びとなっております。さらに本年は、ISOM（国際東洋医学会）設立50周年の節目の年にもあたり、これを記念して「50周年記念誌」の発刊も予定されております。会員の皆様には、ご自身のみならず、ご家族やご友人・知人の方々もお誘いあわせの上、ぜひご参加くださいますようご案内申し上げます。

また、次回ICOM（第22回）の開催地は日本に決定しております。すでに、2027年6月4日（水）～6日（金）に名古屋で開催予定の第77回日本東洋医学会学術総会との合同開催が決定し、現在、準備が進められております。

今後は、皆様への情報発信の充実を図るべく、「ISOM日本支部ニューズレター（Journal of ISOM Japan）」をより頻繁に発刊してまいりたいと考えております。つきましては、本会の円滑な運営と活動継続のため、年会費の納入につきましても、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

フランスの(中国)伝統医学の見学記

市立伊丹病院老年内科 尾崎和成

2024年10月にフランスのパリで世界中医薬学会連合会(WFCMS)が主催する世界中医薬大会(WCCM)に参加・発表し、現地の補完代替医療に接する機会を得ました。

はじめにフランスにおける鍼を中心とした中国伝統医学の歴史についてご紹介します。17世紀後半には宣教師を介して中国伝統医学が紹介され、また同時期に日本やオランダを経由して灸(moxa)が伝来しました。さらに、ルイ14世が清朝の康熙帝より『訓注銅人腧穴鍼灸図経』が贈られるなど、東西間

の交流がみられました。19 世紀に入ると、電気鍼が施行されるなどの試みが行われていました。また、上海に駐在していた外交官スリエ・ド・モランによる貢献が知られています。リヨンの医師ポール・ノジエは、地中海沿岸の民間療法を基に耳鍼の研究を勧め、1956 年に耳と人体との関係につき報告しました。こうした経緯を経て、フランスでは鍼灸を中心に愛好家に受け入れられ、フランスでは中医学や日本漢方・鍼灸とは異なる独自の発展を遂げてきました。

現在、フランスにおいて、鍼治療は法的に規制され、2010 年最高裁判所の判決により、鍼の施術は医師・助産師・獣医師のみに限定されています。」これにより、以前より開業していた医師でない鍼施術者は違法とされていましたが、実際にはモグリの施術が存在しているようです。鍼での治療は公的医療保険制度の償還払いの対象です。パリ・サクレ大学(Université Paris-Saclay、旧パリ第 11 大学)やソルボンヌ・パリ・ノール大学(Université Sorbonne Paris Nord、旧パリ第 13 大学)など、いくつかの医学部では、医師を対象とした科学的鍼教育課程が設けられており、大学独自の学位を授与されています。一方、近年では中国政府衛生部主導により、中医学の国際標準化が進められており、COVID-19 のパンデミック下においても、学会活動は毎年継続され、世界戦略が堅実に推進されています。

フランスにおいては、自国流の中医学を広めたい中国政府衛生部と EU が制定した欧州連合伝統薬品指令(EU Traditional Herbal Medicinal Products Directive:THMPD(2001/83/EC))および国内法に基づき、医師等以外による鍼施術を規制するフランス政府との間で、政策的な綱引きがみられています。

今回開催された WCCM では、初日の行事がユネスコ本部第 1 会議場(パリ)で開催されました(写真参照)。参加者の内訳は、中国本国からの出席者が8割程度、現地在住の中国人や華僑等のアジア系が1割、欧米系の参加者は1割未満にとどまっていた。偏りはあるものの、学会としての規模は国際東洋医学会を明確に上回っていました。こうした現状を踏まえると、我々の学会においても、産学官が一体となり、長期的視野に立った戦略的な対応が今後一層求められると強く感じました。

(本稿については、安井廣迪先生、蔭山充先生よりご指導を賜りました。)



国際がんサポーターブケア学会 (MASCC)

福井県済生会病院内科 元雄良治

2024 年 6 月 27 日～29 日にフランス・リールで開催された国際がんサポーターブケア学会(Multinational Association of Supportive Care in Cancer: MASCC)に参加し、「福井県済生会病院における漢方を活用したがん治療サポート外来」についてポスター発表を行いました。MASCC は 1990 年 3 月に発足した国際学会であり、昨年は奈良にて、日本がんサポーターブケア学会 (JASCC) との初の合

同大会が開催されました。

今回の開催地であるリールはパリからTGVで約1時間、ベルギーとの国境にも近い欧州の交通の要衝として知られる都市です。会場は駅からも近いグラン・パレ・リールで、アクセスの良い立地でした。私の発表は「統合腫瘍学 Integrative Oncology」のセッションにて行われました。このセッションでは鍼治療・カンナビス・マインドフルネスなどが主で、漢方診療はユニークな立ち位置にいました。日本からの発表者は私を含め2名で、もう一人は札幌市立病院消化器内科の中村路夫先生であり、隣のポスターにて補完代替医療のアンケート調査の結果をご報告されました。「漢方は欧米で使用できますか」という質問があり、「医療用は使えないが、OTCであれば米国など一部地域では使える地域があるかもしれない」と回答しました。ポスターはePoster形式で、事前にPDFを提出し、現地ではタブレット端末を用いてスライドの拡大・縮小を行いながら発表を行いました。会場ではヘッドセットの貸し出しがあり、周囲の雑音のないクリアな音声で発表を聴講することができました。

なお、リールはフランス国内ながらビール文化が色濃く、ベルギーに近い立地の影響もあり、会期中に目にした多種多様なビールの種類に圧倒されました。



ISOM 第 41 回定期理事会および ICMART 2024 韓国大会参加報告

国際東洋医学会国際理事 深澤洋滋

はじめに

韓国ではじめて ICMART (International Council of Medical Acupuncture and Related Techniques: 医学的鍼および関連技術の国際協議会) が、2024 年 9 月 27 日から 29 日にかけて、済州島の神話ワールド・ランディング・コンベンションセンターにて開催された。

ICMART は、鍼灸治療を実践する医師によって 1983 年にウィーンで創設された国際学術団体であり、現在はベルギー・ブリュッセルに本部を構えている。EBM (科学的根拠に基づく医療) に基づいた医療鍼灸の普及を目的とし、現在では約 80 の学術団体が加盟し、総会員数は約 35,000 名にのぼる。

今回の韓国・済州島での開催は、2019 年に大韓韓医学会 (The Society of Korean Medicine: SKOM) が ICMART に正式加盟したことを受けて実現したものである。

本稿では、ICMART2024 の開催に併せて実施された国際東洋医学会 (ISOM) 第 41 回定期理事会の概要および ICMART2024 韓国大会の様子について報告する。

国際東洋医学会 (ISOM) 第 41 回定期理事会

第 41 回定期理事会は、9 月 27 日 (金) 20:00 より、神話ワールド・ランディング・コンベンションセンターにて、現地とオンライン (Zoom) によるハイブリッド形式で開催された。現地での出席者は約 20 名。日本支部からは、元雄良治副会長、牧野利明副事務総長、宮崎瑞明国際理事、山岡傳一郎国際理事がオンラインで出席し、吉富誠国際理事、高山真国際理事、深澤 (筆者) が現地参加した。

陳旺全会長による開会挨拶に続き、2023 年 12 月に開催された第 40 回定期理事会の議事録承認が行われた。報告事項では、役員の実況、財務報告、そして 2025 年 8 月に台湾で開催予定の ICOM 21st の準備状況について報告がなされた。

審議事項としては、前任の事務総長の任期満了 (2024 年 6 月 15 日) に伴い、後任の選出について協議された。従来通り、事務総長は韓国支部より選出されることが了承されており、2024 年 8 月 16 日に開催された韓国支部理事会において推薦された李鍾安氏 (大韓韓医師協会副会長) が、新事務総長として本理事会で正式に承認された。

また、2025 年が ISOM 設立 50 周年にあたることから、ICOM 21st 開催時にあわせて記念行事を実施することが審議され、①50 周年記念冊子の発行、②会場内に記念スペースを設置、③記念式典の開催、が承認された。あわせて、事務総長を委員長とする 50 周年記念行事準備委員会を構成し、各国の副事務総長が委員を務めることが了承された。

さらに、学会活動の円滑な運営を目的として、1,000 ドル未満の経費については、会長から事務総長へ承認権を委任することが、条件付きで承認された。

ICMART 2024 韓国大会

第 37 回 ICMART は、“Future of Integrative Healthcare, Convergence of Acupuncture, Medical Science, and Technology”をテーマに、世界 37 か国から 1,007 名が参加した。基調講演は 7 題で構成され、2012 年に Nature 誌に “A neuroanatomical basis for electroacupuncture to drive the vagal-adrenal axis” を発表した元ハーバード大学 (現・西湖大学) の Qiufu Ma 教授が、通電鍼刺激による抗炎症作用の神経解剖学的機序について講演を行った。一般口演は、ultrasound-guided acupuncture、acupotomy、pharmacopuncture、Chuna therapy など、韓国独自の発展を遂げた治療法も含め、全 52 セッション・214 演題が発表された。また、ポスター発表は 247 題にのぼった。

日本の学会とのジョイントシンポジウムは 3 セッション開催された。日本東洋医学会と大韓韓医学会による「遠隔治療」に関するセッションでは、三重大学の高村光幸先生が座長を務め、長瀬眞彦先生 (吉祥寺中医クリニック) は COVID-19



における遠隔治療の実例を、河原章浩先生（広島大学）は日本国内における遠隔治療の現況について発表を行った。「災害および軍における伝統医学」セッションでは、高山真先生（東北大学）が座長を務め、小野直哉先生（未来工学研究所）、三輪正敬先生（東京都立大学）が、東日本大震災をはじめとする被災地での鍼灸治療の実践に基づき、災害時における鍼灸治療の可能性について報告した。また、全日本鍼灸学会と大韓鍼灸医学会による「顔面神経麻痺」に関するジョイントシンポジウムでは、堀部豪先生（埼玉医科大学）、林健太郎先生（東京大学医学部附属病院）が、日本における治療実績に基づいた研究成果を発表した。

本大会では、一般口演およびポスター発表に対して審査が行われ、優秀演題として一般口演から5題、ポスター発表から14題が選出された。日本からは、河原章浩先生（広島大学）が ICMART Young Scientist Award を受賞した。ポスター賞には、松浦悠人先生（東京有明医療大学）、山下仁先生（森ノ宮医療大学）が選出された。

おわりに

韓国で初めて開催された ICMART 2024 は、東洋医療の国際的な学術交流の場として、極めて意義深い大会であった。37 か国から 1,000 名を超える参加者が集い、基礎研究から臨床応用、さらに新たな技術との融合まで、多岐にわたる知見が共有された。また、ICMART 開催にあわせて実施された ISOM 第 41 回定期理事会においては、組織運営の重要事項に関する審議がなされ、次期事務総長の選出や、設立 50 周年記念事業の計画など、今後の発展に向けた方向性が確認された。

本大会を通じて、アジア地域、とりわけ日韓をはじめとする東アジア諸国における東洋医学と現代医療の統合的発展の可能性が改めて示されたことは、今後の学術的・臨床的展開において大きな礎となるものである。今後も関係各位が緊密に連携し、持続的な国際協力のもと、東洋医療の発展に寄与していくことが期待される。

2024 世界伝統医薬大会（北京） 参加報告

名古屋市立大学大学院薬学研究科生薬学分野 牧野利明

2024 年 12 月 3～4 日に中国・北京国家会議場で開催された「2024 世界伝統医薬大会」に、85 ヶ国、611 名の海外からの代表者の 1 名として参加いたしました。大会全体では約 3,600 名が参加する大規模な国際会議であり、主催は北京市人民政府、国家衛生健康委員会、国家中医薬管理局の三者によって構成されておりました。開会式では中国の習近平主席の公式メッセージも紹介され、中国が今後、「中医学のみならず、世界の伝統医薬分野において学術および産業をリードしていく」意思を内外に強くアピールする場となっておりました。そのような国際色豊かな場で、日本からの参加者はやや少数であり、医系が富山大学から貝沼茂三郎先生、薬系が私、鍼灸系では松峰理真先生の 3 名に加え、在中国日本大使館の領事 1 名の、計 4 名のみの参加となりました（なお、中国側として上海ツムラの戸田光胤様もご出席されておりました）。

大会では、医系、薬系、鍼灸系といった専門領域ごとに多彩なシンポジウムが組まれていたほか、教育・国際標準化に関するセッションも開催され、伝統医薬を巡るさまざまな分野で密度の濃い議論が行われました。薬学分野においては、通常中国で用いられる「中薬」という語ではなく、「草薬」の用語 (herbal medicines の中国語訳か?) という表現を用いた品質保持、安全確保に関するシンポジウムが開催されており、あえて世界で使用されている民間薬も含めた生薬を意識しているように感じました。私はその中で、日本と中国での生薬の基原の違いや品質確保、優良生薬の選別に応用できる研究成果について講演いたしました。

大会の最後に、北京宣言が公表され、19項目にわたる伝統医薬における国際合作活動についてまとめられ、決して中国独自ではなく、国際会議らしい各国の調和を配慮した内容のものとなっていました。宣言の最後には、WHO の伝統医学戦略 2025–2034 についての記載があり、2025年5月14日にWHOから発表された同文書へ繋がっていたこと、後になって明らかとなりました。

空き時間には、リニューアルされたばかりの北京中医薬大学博物館を訪問し、1763年に作られたという清朝の円柱型薬棚など、貴重な資料を見学する機会にも恵まれました。



第21回国際東洋医学会学術総会のお知らせ

2025年8月30日～9月1日に、国立台北大学病院・国際コンベンションセンターで開催されます (<http://www.2025icom.org.tw/icom.php>)。また、国際東洋医学会日本支部のWebページからもリンクを掲載しておりますので、あわせてご確認ください。また、国際東洋医学会日本支部のWebページからもリンクを掲載しておりますので、あわせてご確認ください。

日本からは、元雄良治先生、高山真先生、牧野利明先生の講演のほか、日本セッションとして山岡傳一郎先生、畝田一司先生、岡崎弘泰先生、神谷哲治先生、松浦悠人先生が講演されます。一般演題は、韓国から78題、日本からは32題あったと聞きました。ただし、6月現在においても、総会事務局より一般演題の採否結果が未公表となっており、関係者の間でも情報が待たれている状況です。

日本支部会員の皆様におかれましては、今後の情報更新に備え、学術総会公式Webサイトを随時ご確認いただきますようお願い申し上げます。

Journal of ISOM Japan 2025 No. 1
発行日 2025年7月1日
編集者 河原章浩、小川恵子
発行者 元雄良治
発行所 国際東洋医学会日本支部
(ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部

名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学薬学部生薬学分野内
TEL&FAX 052-836-3416
E-mail: isomjapan@gmail.com
ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>